

島根県立
古代出雲歴史博物館
NEWS

2009.JAN vol. 8



CONTENTS

- 2・3 春の企画展「輝く出雲ブランド」特集
- 4・5 年頭寄稿／展示室から／古代文化センターだより
- 6・7 学芸員通信／出雲への道・出雲からの道／山陰歴史回廊
- 8 企画展スケジュール2009／ボランティア通信／募集しています



輝く出雲ブランド
古代出雲の玉作り

企画展 2009年 3.7(土) - 5.17(日)

春の企画展

輝く出雲ブランド

古代出雲の玉作り

出雲の玉が、時空を超えて今、ここに里帰り!
~多数の国宝・重文資料が、展示室を彩ります~

たま…玉。

太古より現代まで、人々の心を魅了してやまない貴石。勾玉や管玉をはじめとする古代の玉、その色合いや素朴な形状には不思議と心惹かれる神秘性が漂う。

出雲では、弥生時代から玉作りが行われるが、とりわけ古墳時代後期(6世紀後半)以降になると、玉生産の中心地となる。『延喜式』(927年)によると、出雲で作った玉類は毎年朝廷に進上され、宮中で行われる祭祀にかかわる品々として特別に扱われている。

「八尺瓊勾玉」は、皇位の象徴とされる三種の神器(鏡・玉・鏡)の一つという伝承もある。

ひととき美しく輝く玉。

古代、全国の豪族たちは、何故こぞって出雲産の玉を求めたのだろうか。

会期

平成21年 3月7日(土)→5月17日(日)

会場

島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

【主催】

島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター

【特別協力】

いずもまがたまの里 伝承館・玉作湯神社・松江市立出雲玉作資料館

【後援】

朝日新聞社松江総局・毎日新聞社松江支局・読売新聞社松江支局
産経新聞社松江支局・中国新聞社・山陰中央新報社・新日本海新聞社
島根日日新聞社・NHK松江放送局・BSS山陰放送・日本海テレビ
山陰中央テレビ・エフエム山陰・山陰ケーブルビジョン株式会社
出雲ケーブルビジョン株式会社・ひらたCATV株式会社



▼松江市・上野1号墳出土玉類
(古墳時代前期)
美しく赤色に輝く勾玉と深緑色の管玉。古墳に副葬されたこの玉は、松江市玉湯町の花仙山で産出する瑪瑙・碧玉で作られた。

展示構成

1 「玉」の誕生から隆盛へ

列島において、玉はどのように誕生し、どのように使われ、隆盛を迎えたのか。時代ごとの玉を概観し、その種類や役割の変遷を探ります。

3 それは出雲から始まった

弥生時代の開始以降、列島に朝鮮半島産の管玉が持ち込まれ、その影響により山陰でも玉作りが始まります。列島の各地に拡大した玉作りの動向や、鉄器の普及による玉作りの転換を探ります。



◀松江市・西川津遺跡
出土玉未成品
(弥生時代前期)
出雲最古の玉作り

5 全国に運ばれる 出雲ブランド

古墳時代中期以降、出雲の玉はそれまでの北陸の玉と入れ替わるように全国に流通するようになります。やがて後期以降、出雲が全国最大級の玉生産地として生産体制を確立していく様子を探ります。



▶鳥取県・上ノ山古墳
(古墳時代中期)
鳥取県立博物館蔵
伯耆にもたらされた赤と青の勾玉

2 出雲の玉作り

出雲の玉作りは弥生時代前期に始まり、古墳時代後期まで一貫して続きます。出雲の玉作りの始まりから、発展過程を紹介いたします。



▶安来市・大原遺跡
出土玉未成品
(古墳時代中期)
工房跡から出土した数々の未成品

4 出雲ブランド誕生

弥生時代から古墳時代へと移行する中、山陰では玉作り集落が出雲に集約し、古墳時代前期には花仙山産の碧玉・瑪瑙・水晶を素材とした勾玉生産が開始されます。これまでに例をみない出雲ブランドの玉を紹介いたします。

6 出雲玉作りの黄昏



古墳時代の終焉とともに、出雲でも勾玉・管玉を中心とした玉作りは一旦終息しますが、奈良時代以降、同じ石材を素材とした碁石状の石製品を生産します。文献にも記された玉の用途について探ります。

◀雲南市・馬場遺跡
(平安時代)
墓に副葬されていた碁石状の玉

【場所】古代出雲歴史博物館体験工房

【時間】各13:30~16:00

【定員】各20名

体験
イベント

●勾玉づくり体験

(同時に企画展を学芸員の解説付でご覧いただけます)

3月29日(日)・4月5日(日) 【参加費】300円

※参加費とは別に企画展観覧料が必要(パスポートをお持ちの方は不要)

●勾玉ストラップづくり体験

4月29日(水祝) 【参加費】1,000円

●とんぼ玉(ガラスビーズ)づくり体験

5月10日(日) 【参加費】500円

【申し込み】電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームにて受付。定員になり次第締切りとさせていただきます。

関連
企画

第1回 「輝く出雲ブランド
—古代出雲の玉作り—」
3/14(土) 島根県立古代出雲歴史博物館 主任学芸員 深田 浩

第2回 「出雲玉作りの技術と系譜」
4/11(土) 島根県埋蔵文化財調査センター 文化財保護主任 米田克彦

第3回 「古代王権と出雲の玉」
4/25(土) 島根県古代文化センター 専門研究員 森田喜久男

第4回 「史跡出雲玉作跡発掘から40年
—出雲初の本格的な玉作調査は何をもたらしたか—」
5/9(土) 松江市立出雲玉作資料館 館長 勝部 衛

第5回 「玉からみた古代出雲王権
—出雲と越と又ナカワ伝承をめぐり—」
5/16(土) 和洋女子大学名誉教授・日本玉文化研究会会長 寺村光晴

【申し込み】電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームにて受付。定員になり次第締切りとさせていただきます。

【場所】古代出雲歴史博物館講義室 【時間】各回とも13:30~15:00 【定員】100名

7 出雲ブランドの記憶

全国で唯一、弥生時代から古墳時代、奈良・平安時代にかけて玉を生産した出雲。出雲の玉作りの意義や影響を探るとともに、江戸時代末に玉湯の地で復活した「めのう細工」を紹介し、現代に受け継がれた玉作りを解説します。

古代出雲のふしぎ

島根県立古代出雲歴史博物館 学芸部長 松本 岩雄

古代出雲といえば、今でも「神話の国」というイメージが強いようです。確かに『古事記』『日本書紀』にみられる神話の中で、出雲に関係あるものは3分の1以上を占めるといわれています。ヤマタノオロチ退治のスサノヲや因幡の素戔・国譲りに登場するオオクニヌシなどは、日本神話の中では代表的なヒーローです。

『古事記』（712年）は「天皇を中心とする日本統一の由来を物語る現存する最古の史書」、『日本書紀』（720年）は「神代から持統天皇までの神話・記録などを編年体で記した史書」です。いずれも日本の古代国家が整えられる際につくられた重要な書物ですが、なぜか出雲に関する神話が多いのです。

神話は歴史的事実とは違い、神話で古代史を語ることはできません。しかし考古資料はその背景を探るうえで重要な手がかりとなります。1984・85年に荒神谷遺跡で全国の出土数を上回る358本もの銅剣（約2000年前）が発見され、銅鐸（6個）と銅矛（16本）が一つの穴の中から出土したことは、古代史の常識を覆すことになりました。さらに1996年には加茂岩倉遺跡から史上最多となる銅鐸39個が発見されたのです。このほか、山陰と北陸に多く分布する四隅突出型墓と呼ばれる特異な形態の墳墓も重要です。なかでも出雲市西谷墳墓群（2世紀頃）には50mにも達する大型のものがあり、王墓と考えられています。

近年明らかになった考古資料から、「出雲には神話に反映されるようなヤマトに対抗する大きな勢力があった」という考えも浮上しています。しかし、『記』『紀』が編纂された8世紀と青銅器が埋納された時期（1世紀前後）や大規模な四隅突出型墓が造営された時期（2世紀頃）の間には6～700年のタイムラグがあります。

神話成立の背景を探るには、まずは古墳時代（3～7世紀）の状況を解明することから始める方がよさそうです。古墳時代は、前方後円墳に代表される墳墓がそれまでの地域ごとの墓制の個性を打ち破る形で、墳丘・埋葬施設・副葬品などに共通の規格をもって広く西日本にほぼ一斉に出現する時代とされています。ところが、出雲では古墳時代前期前半段階には、方墳（前期の方墳では全国最大のものを含む）しかありません。前方後方墳は全国で400基以上知られていますが、その1割が出雲にあります。さらに全国各地の前方後方墳は大半が前期に築造されているのに対し、出雲では約8割が中期末以降から後期に造られており、全国の趨勢とかけ離れた動向を示しています。後期には「石棺式石室」という独特の石室をもち、「出雲型子持壺」と呼ばれる儀式専用の土器が墳丘に置かれています。石棺も「横口式家形石棺」と呼ばれる地域色の濃厚なもので、特に大念寺古墳の石棺は全国最大級です。また、古墳時代後期の出雲は列島内で唯一の玉生産地となり、独占的に各地へ勾玉などを供給しています。とりわけ出雲の後期古墳にみる地域色・独自性は際だっており、当時の畿内からみると異様な世界が広がっている地域とみえたとはいえません。

一方、畿内の古墳との類似点も多くあるので、その共通点と相違点を注意深く比較することによって、日本神話に出雲が多く登場する背景が見えてくるのではないのでしょうか。古代国家の成り立ちを考えるうえでこの上なく重要な地、それが出雲です。



▶ 出雲型子持壺
（東出雲町島田池3号横穴墓）

EXHIBITION

めん と 獅子頭

お正月などに見かける獅子舞の獅子頭は色が赤くて、形は立方体に近いものですが、古い獅子頭はむしろ前後に長く、形は直方体に近いものが多かったようです。今回は県内の神社に伝わる獅子頭に加えて、お祭りなどに使用された面を展示します。3月16日まで。



島根県指定文化財 獅子頭 鎌倉時代
（奥出雲町横田八幡宮蔵）

[古代文化センターだより]

テーマ研究

「中国地方各地の神楽比較研究（島根県の神楽を軸に）」

古代文化センター 専門研究員 中上 明

島根県古代文化センターでは以前から継続した基礎研究として「島根県民俗芸能調査」を行ってきました。これは県内の民俗芸能について調査し記録作成を行うもので、年ごとに対象となる民俗芸能についてビデオ・写真などの記録制作を行い、報告書も刊行してきました。島根県内の民俗芸能では神楽の層が厚く、この「民俗芸能調査」でも神楽を主な対象として調査を行ってきました。本年度にて県内の国・県指定となっている神楽のビデオ・写真制作は完遂するに至りました。

こうした基礎的作業の上に、古代文化センターでは平成18年度から20年度にかけて「中国地方各地の神楽比較研究（島根県の神楽を軸に）」というテーマ研究を行っています。これは県内のみならず中国地方の各地域の神楽についても調査対象を広げて研究していこうというものです。中国地方には県内以上に様々な神楽が存在し、その個性は多岐に渡ります。それでもやはり中国地方に共通する基盤をいずこも持っており、島根県の神楽について広く比較検討する上で必要な調査研究と考えて行ってきました。

鳥取県には神楽は希薄ですが、南隣の広島県、西隣の山口県、南東の岡山県備中地方と、あちこちの神楽について逐次調査を行ってきました。しかし取りかかってみて思うのは「中国地方はやはり広い」。島根県内だけ

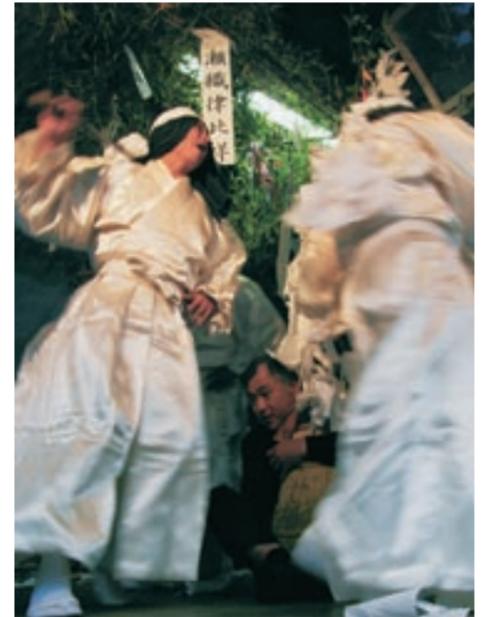


▲備後神楽の荒神祭「神勧請」 広島県世羅郡世羅町黒川にて。舞殿には藁蛇2頭が巡らされる。

でも長年かかってきたのに、さらに中国地方の範囲となると3年ほどで出来ることは自ずから限界があります。まだまだ今後も継続して調査していく必要を感じていますが、ともかく3年のまとめとして来年度に報告書を刊行する計画にしています。客員研究員や専門スタッフの各々の視点からみた論文や報告を集成する予定です。

平成22年2月初～4月初にかけて、古代出雲歴史博物館での神楽の企画展も予定されています。展示ではもちろん島根県の神楽が主となりますが、単に県内だけの視野に留まらないものになれば、と考えているところです。

▶ 山代本谷神楽の「山の神」山口県若国市本郷町波野にて幣串の「山」を取り囲んで舞う。



展示企画の裏舞台 — 展示ガイド —

専門学芸員 品川 知彦



古代出雲歴史博物館では、より詳しく展示資料の内容を知っていただくために展示（音声）ガイドを作成し、皆さまに活用していただいております。ところでこの展示ガイド、通常の音声ガイドとは異なり、音声のみではなく、解説文や画像も閲覧できる“自称”勝れモノです。使用する機器は、小中学生の皆さんにも島根の歴史に親しんでいただけるように、また耐久性や導入コスト面も考慮して汎用のゲーム機を採用しました。しかしながら一方で、操作方法がわかりにくいといった御意見も受けることになりました。古代出雲歴史博物館では、開館以来、この点を克服するために努力を続けています。

まず第1に、操作上不必要なボタンを透明ケースやシール等を利用して使用不能することで、誤操作が生じないようにしています。

第2に、資料選択の方法の変更です。当初は、様々な理由から番号選択という方法をとっていませんでした。しかしながら、アンケート調査では、番号選択がわかりやすいという御意見が圧倒的でした。このため、開館後すぐに番号選択に変更しています。もちろん、番号選択に変更するためには、該当資料の周辺に番号札を付ける作業が必要となります。翌日の朝から対応するために、夜を徹しての番号札取付け作業が行われました。

第3に、一度番号を付けると、番号がどこにあるかわからない、番号が見にくいなどの改善事項が寄せられてきます。これも日々改善し、現在では、基本的に展示ケースの左上および展示資料の付近の2箇所に番号札を付け、またその札も当初よりも大きくしています。他にもまだまだ変更箇所はあるのですが、アンケート調査結果でおよそ8割の方に、「操作しやすい」という評価をしていただいた後に、本格運用が開始されています。

ところで、使用方法の変更以外にも、大変なことがあります。この展示ガイドはインターネット（無線LAN）を利用していますので、展示室に大きな造作物が作られた時などには、無線が障害を受ける場合があります。このため定期的に接続状況を確認し、接続状態が悪い場合には、新たな無線アンテナを他のアンテナと干渉しないように設置しています。

まだまだ進化の必要がある展示ガイド。将来的には映像も流せるようにしていきたいと思いますが、その進化のきっかけは皆さんからの御意見です。御利用いただき、積極的な御意見をよろしくお願いいたします。

[出雲への道・出雲からの道]

テーマ研究

「古代出雲の多面的交流の研究」

2年目に入ったこのテーマ研究、おもしろい発見が続出です。古代出雲を外から見つめなおすと一体何が見えてくるのでしょうか。

『播磨国風土記』によれば、播磨国揖保郡桑原里の琴坂（現在の兵庫県たつの市）の地にやってきた出雲国の男が、年老いた父親と共に水田を耕している乙女の気を弾こうと琴を奏でます。だから、この地を琴坂と云うのだそうです。これってひょっとしてナンパ？播磨国の人々にとって、出雲国からやって来た人々や神々ほどのようなイメージでとらえられていたのでしょうか。

さて、奈良時代に作られた山背国愛宕郡出雲郷計帳によれば、今の京都府京都市の下賀茂神社の近くに「出雲臣」という姓の人々がたくさん住んでいたことがわかっています。彼らは律令制国家の下級官人で、奈良時代の政治家であった長屋王に仕えた人もいました。その他、和紙を作っている人、宮を造営する職人さん達もいました。出雲氏と言えば、神事に携わる神職というイメージがありましたが、それだけではなかったのです。他にも、古くはヤマト王権の直轄地である「屯田」の管理をする人もいました。

出雲にまつわる人名や地名は列島各地に分布しています。ジェロの歌みたいですが、私達はそれらを追い続けます。その先にどのような新しいイヅモ像が姿を現すのでしょうか。楽しみます。

（古代文化センター専門研究員 森田喜久男）

第1回

妻木晩田遺跡

国史跡「妻木晩田遺跡」は中国地方最高峰の大山（標高1709m）のふもと、標高約100mの丘陵上に広がる弥生時代後期（今から約2000～1750年前）のムラのあとです。その面積たるや何と170ha！東京ドーム約40個分もの広さです。これまでの調査で、竪穴住居跡が約440棟、掘立柱建物跡約510棟、墳丘墓34基などの遺構が見つっています。また、遺物も多数出土していますが、中でも鉄製品は約400点と、北九州以外の地域では青谷上寺地遺跡と並び群を抜く出土量で注目されます。今回、歴博で開催される企画展「輝く出雲ブランド～古代出雲の玉作り～」にも出品されますが、妻木晩田遺跡では恐らく島根半島など近隣から緑色凝灰岩の原石を入手して管玉づくりを行っていました。そして、こうした玉を交換財として北部九州から鉄製品を入手、加工していたものと考えています。



いま、妻木晩田遺跡では、「甦る弥生の国邑」をテーマに往時のムラのように再現する史跡整備を平成23年の完成を目指して進めています。この整備では、竪穴住居、高床建物を12棟復元するほか、発掘調査したままの状態の竪穴住居の遺構を見学いただく施設、弥生時代の森を再現するエリア、そしてお客さまをお迎えし、遺跡についての理解を深めていただいたり、ものづくりの古代体験を楽しんでいただく「中央ガイダンス」（仮称）などを整備します。「中央ガイダンス」は県産材をふだんに使用した木の香あふれる施設で、平成22年春オープンです。今後、ますます魅力をますます妻木晩田遺跡へぜひお越しください！

- ▷ 開場時間／午前9時～午後5時（年末年始を除き年中無休）
- ▷ ボランティアガイドによる遺跡案内
4月～11月。平日は午後1回、土日祝祭日は午前、午後各1回（予約不要）
- ▷ 「お気楽♪弥生気分！」（簡易古代体験）
4月～11月の土日祝祭日。午前10時～午後4時（予約不要）
- ▷ アクセス／山陰道淀江ICから南へ約5分。JR淀江駅から徒歩約40分

お問い合わせ

鳥取県教育委員会事務局妻木晩田遺跡事務所
〒689-3324 鳥取県西伯郡大山町妻木1115-4
TEL 0859-37-4000
<http://www.pref.tottori.lg.jp/mukibanda/>

第9回弥生文化シンポジウム

妻木晩田の 人々が愛した色

入場無料

～弥生時代の色彩世界～

【日時】3月8日(日) 12時30分～17時

【会場】米子コンベンションセンター 小ホール

記念講演 「日本の色のはじまり」

吉岡幸雄さん（「染司よしおか」5代目当主、染色家）

伝統の手法で植物染めに挑み続ける斯会の第一人者が、弥生の色に迫る！

パネルディスカッション

「弥生人男性の衣装を復元する」

【応募方法】 往復はがきの往信欄に「聴講希望」と郵便番号・ご住所・お名前・電話番号記載の上、お申込ください。

【お申込先】 鳥取県教育委員会事務局妻木晩田遺跡事務所
〒689-3324 鳥取県西伯郡大山町妻木1115-4
※妻木晩田遺跡ホームページの「講座・イベント申込フォーム」またはEメール（mukibanda@pref.tottori.jp）でもお申込みできます。

輝く出雲ブランド
古代出雲の玉作り



2009年 3.7(土) - 5.17(日)

松江開府
400年

特別展

どま
しい

出雲と相撲

2009年
7月17日(金) - 9月23日(水)

特別展 神々の座・出雲

-並河万里写真展-

2009年5月29日(金) - 7月5日(日)

企画展

出雲に律令制が
やってきた!

(仮)

2009年10月9日(金) - 12月13日(日)

特集展

『大社の吉兆幡』(仮)

2009年12月22日(火) - 2010年1月17日(日)

歳徳神

企画展 『島根神楽展(仮)』 2010年2月5日(金) ~ 4月4日(日)

【ボランティア通信】

高さ2メートルの巨大“門松”登場！

古代出雲歴史博物館の正面玄関に、12月28日、巨大な門松が設置されました。製作したのは、当館のボランティアスタッフで、今回初めて企画。材料はすべてボランティアスタッフが持ち寄り、手作りで完成させた力作です。正面入口には3本の竹を中心とした伝統的なものが一対、東入口にはオリジナル門松が一対飾られ、お客様の目を楽しませてくれました。



募集
しています

古代出雲歴史博空間で、四季折々に多彩なイベント展開をしませんか？

古代出雲歴史博物館では、魅力ある博物館運営と来館者サービスを目的とした四季折々の博物館まつり、七夕祭り、観月会などイベントを実施していますが、その際に楽器演奏、伝統芸能の上演、神話がたりなど芸術文化パフォーマンスやフリーマーケットなどのにぎわい市などイベント出演・出店者を募集しています。(ただし博物館運営にふさわしいものに限り。なお費用経費がかかる場合は、個別に相談します。)

お問い合わせ▷古代出雲歴史博物館 TEL 0853-53-8600

発行/平成21年1月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo
〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL : <http://www.izm.ed.jp>
E-mail : contact@izm.ed.jp



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん